

【研究課題の名称】

整形外科手術を受ける患者とその家族に新型コロナウイルス感染対策に伴う面会制限が与える心理的影響

【研究の目的及び意義】

A病棟は新型コロナウイルス拡大の影響を受け、感染症拡大予防として2020年3月より全面的に面会禁止の措置を取っている。A病棟は急性期の整形外科病棟であり、手術を受ける入院患者が多数を占めている。入院患者からは家族と会いたいという発言が聞かれ、家族からも患者を心配した連絡が増えた。しかし、患者は家族と面会することが出来ず、不安や孤独感を抱えて手術に臨むことも多いのではないかと考える。今後も、感染拡大防止策の一環として、面会制限が継続されることが考えられる為、上記の実態を把握し、必要時は患者もしくは家族に対するメンタルケアを実施する必要があると考える。

そこで、本研究は、整形外科手術を受ける患者とその家族に新型コロナウイルス感染対策に伴う面会制限が与える心理的影響を明らかにすることを目的とする。

新型コロナウイルス感染対策に伴う面会制限が患者もしくは患者家族にどのように影響しているのかを明らかにすることは、看護師が面会制限のある中で患者・家族のメンタルケアを検討する上で、重要なことであると考ええる。

【研究対象者の選定方針】

面会制限下で、A病棟に入院し全身麻酔で整形外科手術を受け、1週間以上入院される患者とその家族を対象とする。但し、認知症のある場合は、日常生活自立度Ⅰ～Ⅱbの患者とする。

選定理由：ある程度身体侵襲が高い手術患者は、1週間以上入院が必要となる。入院期間が長くなるにつれて面会制限による心理的影響は大きいと考えられるため1週間以上の入院期間と設定した。また、認知症の患者は日常生活自立度Ⅱbまでであればアンケート内容の記載に不足があっても聞き取りにてデータ収集可能と考えられるため日常生活自立度Ⅰ～Ⅱbまでとした。

【研究予定期間】

承認日（西暦2021年3月30日）から西暦2021年10月31日